

学校の概要

(平成 1 5 年 4 月現在)

学校名	那賀郡岩出町立岩出小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員
学級数	3	2	2	2	3	2	2	1 6	2 2
児童数	8 0	7 0	7 2	6 1	9 4	7 2	4	4 5 3	

研究の概要

1、研究主題（テーマ）

学ぶことの楽しさを追究し，一人一人に確かな学力を身につけさせる授業の工夫
 ————— 算数科の学習を通して —————

2、研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

1 年～ 6 年，特殊学級・算数

- ・ 学ぶ楽しさを感じ、学習意欲を高めるためには、系統性が明確な教科が有効だと考えたため。
- ・ 理解度や意欲・態度などの学習の成果が、顕著に現れる教科であるため。

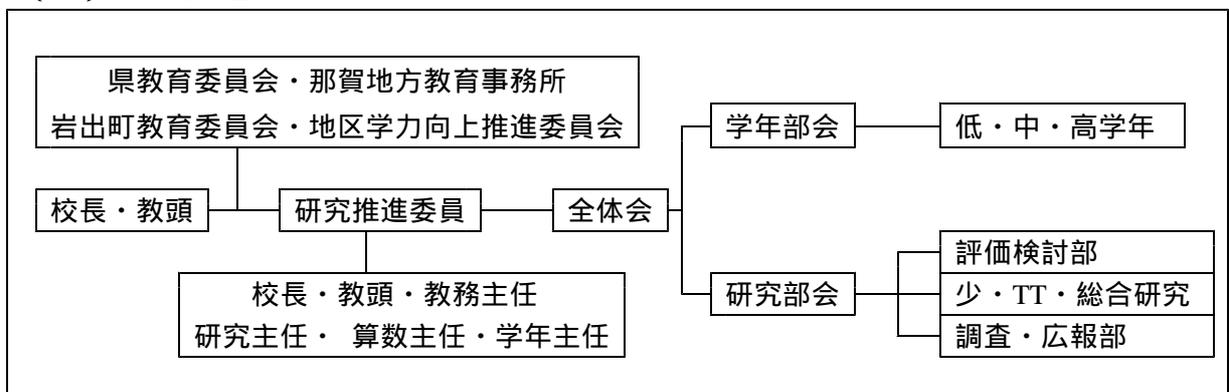
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年	<p>テーマ</p> <p>学ぶことの楽しさを追究し，一人一人に確かな学力を身につけさせる授業の工夫 ————— 算数科の学習を通して —————</p> <p>仮説</p> <p>人間には，知的好奇心（製作の興味・真理探求への興味・コミュニケーションをしたいという興味・自己表現）などに基づいて，自発的に学ぼうとする欲求が備わっていて，これが満たされたとき必然的に喜びや楽しさが湧いてくる。自分の思いや願いを実現させ，自分がそれに積極的に参加したことを知ることによって，楽しさを実感させることができ，それが一人一人に確かな学力を身につけさせることになるのではないかと考えた。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>確かな学力をつけるための授業改善と教材開発の研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 綿密な計画を取り入れた，単元指導計画作りの研究。 ・ 学習に対する主体性や自分自身の学習を振り返る力を養う，自己評価カードの研究。 ・ 発展的，補充的な学習，くりかえし学習の補充プリントの研究。 ・ レディネステストや形成テストの誤答分析を生かした授業の研究。 ・ ねらいを実現するための指導の工夫と教材の開発。 <p>よりきめ細やかな授業をもとめての指導体制の工夫改善</p>
---------------	---

度	<ul style="list-style-type: none"> ・チームティーチングによる効果的な指導方法についての研究。 ・個に応じた適切な指導を展開するための少人数指導の研究。 ・習熟の程度に応じた課題設定と、指導法の研究。 ・基礎的な計算力をより確かなものにする取り組みの研究。 <p>評価を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標と指導と評価の一体化による、「確かな学力をつける授業づくり」の研究。 ・目標に準拠した評価と評価規準表の作成とその活用方法の研究。
---	--

平成16年度	<p>テーマ 学ぶことの楽しさを追究し、一人一人に確かな学力を身につけさせる授業の工夫 ————— 算数科の学習を通して —————</p> <p>仮説 人間の持っている知的好奇心を引き出し、学ぶことの楽しさを感じながら、自ら学び考えようとする“向上心・知力・探求心”との相互経験をくり返すことで、学力が身につく、生きる力の育成につながる。と考える。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>確かな学力を身につけるための授業改善と教材開発の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿密な計画を取り入れた、単元指導計画作りを全単元に広げる。 ・学習意欲を高める子どもの自己評価・振り返りのあり方とその活用。 ・発展的・補充的・くりかえし学習プリントの充実。 ・誤答分析を生かした指導の充実。 ・ねらいを実現するための指導と教材開発を全単元に広げる。 ・思考力・判断力・表現力を育成するための教材開発の推進。 <p>個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善の研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人を大切に、指導・支援が効果的に展開されるようなチームティーチング指導や少人数指導の研究。 ・より効果的で多様なパターンのコース分けができる習熟度別指導の研究。 <p>評価を生かした指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくる評価から生かす評価への、評価規準の工夫改善に関する研究の推進。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1, 研究の成果

- ・評価を指導に生かすことにより，児童一人ひとりに目が行き届き，つまずきの分析がしやすくなった。
- ・できたことや，できるようになったことを認め，児童に返すことにより自信をもたせることができた。

取り組みの結果（5年・面積）

	レディネステスト	形成テスト
クラス平均	63.3点	88.3点
下位10人の平均点	22.4点	65.6点

- ・TT や少人数指導，習熟度別指導といった様々な方法を取り入れ，個に応じた指導の実施等により，児童一人ひとりの学習意欲が高める場面を多くつくれた。
- ・児童に達成感，満足感を数多く味わえる場面を設定することにより，算数への意識も変わってきた。

アンケートの結果より（5年・94人）

	平成15年5月	平成16年1月
1、算数は、好きですか		
ア、大好き	28%	34%
イ、まあ好き	46%	45%
ウ、嫌いなほう	17%	14%
エ、大嫌い	9%	7%
2、(TT、少、習)が合っていると思うか。		
ア、思う	68%	73%
イ、あまり思わない	27%	26%
ウ、全く思わない	5%	1%

- ・小プリントで満点を取るという「小さな成功体験」を何度も経験することにより，除々に実力がつき，家庭でも継続することにより，勉強の習慣もついてきた。

計算力をつける取り組みの結果（6年）

	1学期前半	1学期後半	2学期
平均点	79.9点	82.8点	86.5点
下位10人の平均点	37.1点	48.8点	54.7点

- ・指導計画や活動の支援の仕方・授業のふり返し等，職員間で話し合いをもつなかで考えを出し合い，創意工夫をした授業や教材の準備をすることができた。
- ・結果にこだわることの重要性が，職員の意識の中に定着した。
- ・知的好奇心を活性化させる取り組み（2年の取組から）

単元 「三角形と四角形」(全8時間)

本時 第7・8時間目 題材「やってみよう」

ねらい 三角形四角形を身近な形としてとらえさせるとともに、図形を構成する力を育てることができるようにする。

「パズルであそぼう」ということで、パズルの形を印刷したパズルを枠内で完成させることから始め、次に、ただの枠だけのところへ元の形を見ないで、パズルを完成させることに挑戦させた。子ども達は三角形や四角形の形に着目して、ピースの向きを変えたり場所を変えたりと、考えながら様々な作業を繰り返し、完成させていく姿が見ることができた。次にパズルのピースを全部使って、好きなものを色々作っていく過程では、三角形や四角形の組み合わせや置く位置によって、恐竜・ペリカン・飛ぶ鳥・お城・動物・足長人間・ヘリコプター・魚など、様々なものを作り出していった。頭をひねって考え、ピースを置き直したりして、試行錯誤を繰り返し、自分のイメージ通りに出来上がったときの子ども達の顔は輝き、声も弾んでいた。

上記の授業風景からでも分かるように、教え込もうというような指導観から、学習者中心の指導観に転換され、知的好奇心(製作の興味・自己表現)を活性化させるような取り組みの授業展開がなされている。教師は子どもを認め励まししながら、次の行動を起こさせるような働きかけを考え、子ども達も試行錯誤を繰り返しながら、つくる楽しさや発見する喜びを味わいながら積極的に行動している。

次に子ども達はこの作品を学級で発表することにより、みんなに認められ、より一層の達成感・満足感・成就感を得ることになる。

このような経験を数多くさせることが、学ぶことの楽しさを深め、子ども達の向上心・知力・探求心を養うことにつながる。

2、今後の課題

- ・ 発展的な学習など、思考力・判断力・表現力を育成するための教材開発を進める必要がある。
- ・ つくる評価から生かす評価への、評価規準の工夫改善や評価に関する研究を進める必要がある。
- ・ より効果的で多様なパターンのコース分け、少人数指導の研究を深める必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

児童の意識調査(アンケート調査の実施)

目的 児童の算数科に対する意識を調査し、学力不振の要因を確認するため。

内容 勉強の意欲・自主的態度・根気強さ・授業の受け方等

時期 5月中旬

集団基準準拠テスト(NRT)の実施(算数)

目的 児童の学力達成度を評価し、今後の指導法改善に役立てるため。

内容 前学年までの各領域別による問題

時期 5月中旬

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

那賀地区学力向上推進協議会で本校の取り組みを発表

日時 平成15年7月7日・場所 粉河町立粉河小学校

対象 那賀地区学力推進委員・

目的 研究の意図と成果を広げるため

加藤 明先生による示範授業と講演

日時 平成15年12月4日・場所 岩出町立岩出小学校

対象 県内参加希望者・目的 授業改善の理解を広げるため

那賀地区学力向上推進協議会で中間報告

日時 平成16年2月16日・場所 岩出町立岩出小学校

対象 那賀地区学力推進委員・目的 研究の成果を広げるため

中間研究報告書を3月に配布

研究発表会

日時 平成16年 月 日

対象 県内参加希望者・目的 研究の成果を広げるため

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T.Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	